

第 12 回介護・医療連携推進会議

場所：ケアタウンながと

開催日時：平成 30 年 2 月 22 日 14：00～15：00

出席者：下記

1：開会

2：出席者の紹介

戸高様（介護保険係）、野村様（包括支援センター）、古賀由直様（利用者家族）、
所賀清美、和田玲子、高橋晶子、植村香江、衛藤正樹、（欠席：清田様（地域代表）、
金田（医療機関））

3：会議の目的

事業所が提供しているサービスの内容を会議で明らかにすることにより、利用者の「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図る。
また、地域における介護及び医療に関する課題について関係者が情報共有を行い、介護と医療の連携を図る。

4：サービス実施状況

（訪問介護）

登録者内訳：地域 14 名（内 1 名は、2 月 9 日より入院。緩和ケアへ行き終了）

つくし 11 名

介護度：介護 1（20 名） 介護 2（3 名） 介護 4（2 名）

（訪問看護）

介護度：介護 1（14 名）要介護 2（3 名）介護 4（1 名）

5：意見交換

植村：共生と定期巡回の見学に連れて行っていただき、あすなら苑に近づけるような方向性を事業所として模索中。生活援助や入浴サービスを切り離していたが、「自立支援」の視点から共に行うことで掃除を位置づけることができる。これには、アセスメント力が求められる。また、アセスメントした内容を定期巡回に落としとしてサービスに位置付けるには、CM への説明が必要となる。ここでは、説明力が求められると感じている。

今後、事業所としては、生活援助や入浴などの長時間の身体介護も受けることにより、間口が広がると考える。またそのサービスが介護保険対象ではない場合等については、佐伯市と協議をしていきたい。

戸高様：来年度も視察を検討している。今後 3 年かけ、いろいろなところを見学し、いいところを真似して、佐伯市にあった介護保険を作っていけたらいい。認知症の方の事例で包括や高齢者福祉課の方から、ケア会議などで「定期巡回を使ってはどうか」という提案が出て来るようになった。成果が出てきていると思う。

古賀様：デイサービスに行きたがらない母に頭を悩ませる。母だけでなく、娘も障害を抱えており、私一人ですべてをすることはできない。最近はずぐに口げんかになる。こちらのほうが精神的、肉体的にも限界になりそう。

朝と夕方、定期のスタッフが来てくれると私のほうが安心して心が休まる。

植村：同居家族がいる場合の家事援助を利用できないという課題がある。ご家族への介護負担軽減も定期巡回の担う役割なので、家事負担の軽減ができれば良いと思う。

高橋：つくしに申込みに来られる方が、独居でご家族が遠方というケースが多くなっている。事例として、独居で生活していたのに息子様が仕事を辞めざるを得ない状況で自宅に帰った。その結果、それまで受けられていた生活援助を受けることができなくなった。自宅でもう少し生活出来ると思っていたが、生活援助を受けられないので施設の検討に至ったという。古賀さんのお話を伺ってこのようなケースは多いのかも知れないと感じた。

戸高様：4月より共生型サービスがスタートする。単価等の詳細はまだ不明であるが、お孫様へのサービスを共生型サービスで行い、定期巡回と併せて利用していけないかと考える。

野村様：古賀さんのケースは利用者と家族の健康を守るという意味で、保健師の介入が必要な事案ではないか。子どもさんが小さい時には、保健師が介入したり、サービスも利用できたりしていたと思う。サービスの適用年齢に達したということで、サービスを終了したと思うが、地域で見守るという役割としては分室の保健師に関わってもらおうと良いと思う。

植村：古賀さんが良ければ、戸高さん（あいの風）から連絡を入れて頂きましょうか？

古賀様：戸高さんなら全部知っているから、よろしくお願いします。

所賀：お忙しい中、出席して下さいありがとうございます。古賀さんのお話を聞いて良かったと思う。定期巡回だけでなく、他のサービスの利用についても提案して頂くことができた。まだ、勉強不足のところもあるが、今後ともよろしくお願いします。

戸高様：生の声を聴けてよかった。生活援助の問題は、共生型サービスと併せて利用できると良いと考える。また、あすなろ苑を視察したことで模索されているが事業所の事情もあると思う。佐伯市の制度の部分も含めて、全体的なところを見て考えて行けたら良いと思う。

6：次回開催予定
月予定

7：閉会